

神戸―西明石間、ＪＲ福知山線の尼崎

―新三田間、阪急の神戸、宝塚、今津、

甲陽、伊丹、箕面各線、阪神の本線、西

大阪線、山陽電鉄本線、神戸市営地下鉄、

北神急行、神戸新交通ポートアイランド、

六甲アイランド線、神戸高速鉄道の東西

線、神戸電鉄の有馬、三田、粟生線――。

回送、貨物を含む計百十九本の電車が線

路上にあり、乗客は合わせて五千四人。

阪神高速神戸線、五号湾岸線にはトラ

ックなど大型車百台、乗用車百六十三台

が走る。四十の料金所で百四十八人の係

員が勤務中だ。

大阪市内を十台の救急車が走ってい

る。大阪府警は百四十台のパトカーで警

ら中。目立った交通事故も事件も火事も

ない。

四十四分、ＪＲ新大阪駅には、約七百

人の予約が入った東京行き「ひかり二〇

〇号」など上下四本が停車中。ホームで

約六十人が乗車を待っている。

神戸市東灘区本山の保久良山では、猿

丸義成宮司（益）ら信者約五百人が早朝

登山の後、保久良神社の絵馬堂に立ち寄

り、記帳。市内ではジョギングや、犬の

散歩をする人のそばを二台の救急車がサ

イレンを鳴らして走り抜けた。

東北東の風四メートル、街路樹がざわ

めく。気温三・四度。西の雲間に、赤く

鈍い光を照らす満月。時計の針は、午前

五時四十五分にかかろうとしていた。

明石の天文学科学館

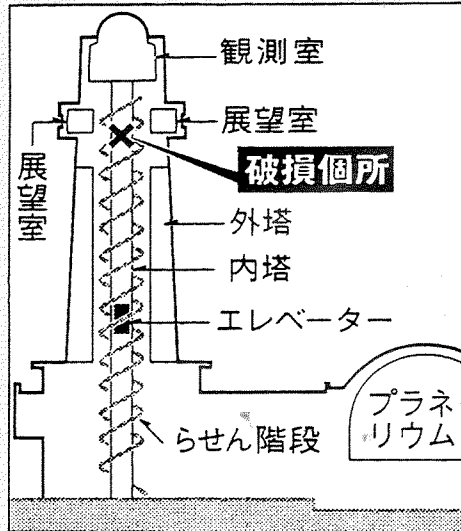
完全修復は困難

特殊な二重構造ネック

阪神大震災で被害を受けた兵庫県明石市立天文学科学館の展望塔（高さ五十四メートル）の完全修復が難しいことが十六日、明らかになった。展望塔自体が特殊な二重構造になっていることが修復の妨げとなっており、標準時を告げる子午線（東経一三五度）の町のシンボル復活に向けて、関係者の苦悩が続いている。展

望塔は十六階建て。最上部は百五十ミリの屈折望遠鏡がある観測室、十三、四階が展望室で、十三階まではエレベーターを利用できる。振動による望遠鏡のぶれを防ぐため、エレベーターを収めた内塔（直径三・五メートル）を塔の外側部分（外塔）から独立させ、二重構造になっているが、震災でこの内塔が三十九メー

震災で破損した明石市立天文学科学館の断面図



トル付近で折れ、外塔に寄りかかるように傾いた。また、外塔にも多くの亀裂が走り、玄関前のテラスも壊れた。

同市は復旧を目指して、同館を建設した大手建設会社に調査を依頼しているが、外塔の中にあって、傷みがひどい内塔を完全に修復するのは

技術的に難しく、時間もかかると見ている。

壊れた内塔の上部だけを撤去する案や、全面建て替え案も出ているが、建て替えの場合は修復の約三倍にあたる六十億円もの費用がかかる見込みで、結論が出るにはまだ時間がかかりそうだ。

また、震災後、発生時間の午前五時四十六分を指したまま止まっている展望塔最上部の標準時を知らせる大時計（直径六・二メートル）について、「震災の記念碑として止めたまま残して」という市民の声が多く寄せられている。

しかし、同市は震災から立ち直る明石の象徴に、との願いを込めて、震災後一か月の十七日正午から作動させ、一分間の黙とうをささげる。

河野健三館長は「建て替えと修復の両面で検討している。子午線の上に立つ展望塔は、明石のシンボル。何とか復旧したい」と話している。同

館は六〇年六月十日の「時の記念日」にオープン。展望塔のほかプラネタリウム、展示室などがあり、毎年十六、七万人が利用している。近年は明石海峡大橋の建設現場を遠望できるスポットとしても人気を呼んでいた。（二月十六日夕刊から）